



血液サラサラ、疲労回復、スタミナ成分も含むタマネギ。

藤田智 直伝!

家庭菜園

基本のキホン!

その 21 タマネギ

タマネギを上手に作る秘訣は、
まず適期にタネをまき、
植え付けること。
そして、ちょうどよい大きさの
苗を使うことです。
早生種はいち早く生食で、
中晩生種は長く貯蔵して、
舌にも身体にもおいしい生活を
送りましょう。

恵泉女学園大学 園芸文化研究所准教授 藤田 智

タマネギの特徴

「血液サラサラ」でおなじみのタマネギですが、栽培の歴史は古く、4000年を超えるものとされています。北イランからアルタイ、エジプトでは、かなり古い時代から食用として珍重されていました。タマネギの原産地については諸説あり、アフガニスタン近辺の中央アジアとする説を、筆者は支持しています。

日本へ本格的に導入されたのは明治4年（1871年）で、北海道開拓使によるものでした。しかし、当時はほとんど日本人の食卓になじまず、明治後年から、南半球のニュージーランドをはじめ海外へ輸出されるようになってきたという、珍しい経過をたどった野菜です。日本における古くからの産地は、北海道、大阪、兵庫でしたが、戦後は食事の洋風化によってタマネギの消費が伸び、それとともに北海道の栽培面積が急増して、現在では全国一となっています。

タマネギは、冬越しして育てる野菜の代表です（北海道を除く）。自然状態では、冬越しして5月にネギ坊主の花が咲き、6月にタネができます。しかし、ネギ坊主が出ては、タマネギ栽培としては失敗になるので、花芽分化の条件を知っておく必要があります。タマネギはある一定以上の大きになると、寒さに反応して花芽を分化する

おすすめタマネギあれこれ

極早生種

(11月上中旬植え付け、
4月下旬～5月上旬収穫)



苗立ちもよく、病気に強い極早生種「マツハ」。

早生種

(11月上中旬植え付け、
5月上旬から収穫)



8月までの貯蔵が可能で、とにかく作りやすい「ソニック」。

中生・中晩生種 (11月下旬～12月上旬植え付け、5月中旬から収穫)



病気に強く、トウ立ちや分球も少ない中生種「ターボ」。



12月までつり貯蔵ができる中生種「OK黄」



色ツヤ抜群で、貯蔵性に優れた中晩生種「ネオアース」。

生食用



オニオンサラダに最適、美しい濃赤紫色の外皮を持つ「猩々赤」。

ミニタマネギ



どこでも作りやすく品質や食味もよい、ペコロス(小玉)栽培向き品種「貝塚早生黄」。

オニオンセット



子球を植え付けて育てる、オニオンセットの「ホームたまねぎ」。

「猩々赤」は、今期は品切れとなっております。ご了承ください。

性質を持ちます（緑植物春化型）。したがって、植え付ける苗の大きさが問題になります。また、鱗茎の肥大には長日条件が必要で、春先からタマネギが肥大するのはそのためです。

主な品種

タマネギも品種が増え、多彩なものがラインアップされています。おすすめのための主な品種と特徴は、次の通りです。
 極早生（11月上旬植え付け、4月下旬〜5月上旬収穫）
 マツハ はトウ立ちが少なく、低温肥大性に優れ、病気にも強い品種です。また、チャージ は1球が300〜350gになる品種で、作りやすく食味もよいので、家庭菜園向きといえます。

早生（11月上旬植え付け、5月上旬から収穫）
 ソニック は病気に強く、トウ立ちもごく少ないので、早生種の中ではおすすめです。筆者が大学農場で栽培していたのもこれで、私のお墨つきの品種です。また、中早生種では、オメガ が、病気に強くて揃いもよく、9月までのつり玉貯蔵に向きます。

中生・中晩生（11月下旬〜12月上旬植え付け、5月中旬から順に収穫）
 中生では、ターボ、OK黄、OL黄、OP黄、アトン がおすすめです。ターボ（1球約320g）は病気に強

く、収量が多い品種です。OK黄（1球約290g）は貯蔵力があり、萌芽も少ないため12月まで貯蔵が可能です。私もこの品種のファンの1人です。OL黄（1球約300g）は作りやすく食味のよい品種、OP黄（1球約320g）は分球の心配がなく、栽培しやすい定番の品種だといえます。また、アトン は1球約600gと大玉栽培向きで、加工・業務用に最適です。大玉でも食味がよく、家庭菜園で栽培してもおもしろい品種です。

中晩生では、ネオアース（1球約350g）が貯蔵性に優れており、色ツヤがよくて人気の品種です。アタック（1球約320g）は病害に強く貯蔵性にも優れ、2月末までつり玉が可能です。パワー（1球約290g）は、長期貯蔵に最適な品種です。

生食用
 生食に最適なのが赤タマネギの狸々赤（じよらあか）で、外皮は美しい濃紫色をしており、サラダの彩りとしても鮮やかです。中晩生で6月上旬から収穫します。

ミニタマネギ
 ベコロスと呼ばれる小タマネギ栽培には、貝塚早生黄 を利用します。普通のタマネギですが、春まきして小玉に育てます。

オニオンセット
 子球を植え付けて育てる方法をオニオンセット栽培といい、8月下旬に植え付けると年内の収穫が可能です。これは「ホームたまねぎ」として販売されています。

栽培方法

1 タネまき時期

自分で苗を作る場合は、9月にタネまきをします。早すぎると大苗になってトウ立ちの危険性が大きくなり、遅すぎると凍害を受けて枯死することがあります。実際には、早生品種で9月15〜20日、中生・中晩生品種で9月25日を目安にタネをまくとよいでしょう。
 畝幅を1mとし、1m当たり苦土石灰150g、化成肥料（N・P・K＝15・15・15）100g、熔成リン肥（熔リン）50g、堆肥2kgを全面散布してよく耕し、平畝を作ります。1m幅のベッドに条間10〜12cmの条をつくり、1cm間隔にタネをまいて、発芽するまでベタがけで覆います（第1図・第2図）。



ベタがけには、もみ殻を使ってもよい。

第2図 ベタがけ

発芽するまで、わらや新聞紙、寒紗などベタがけしておく。

発芽するまで乾かさない。



第1図 タネまき

早生種は9月15〜20日、中生・中晩生種は9月25日前後を目安にタネをまく。

土づくり
 タネまき2週間前

苦土石灰を散布し、よく耕す。

苦土石灰
 1㎡当たり
 150g

全面散布



クワでよく耕す!

畝作り

タネまき1週間前

それぞれ
 1㎡当たり

100g
 2kg

全面散布



タネまき



クワでよく耕す!

2 苗の購入

11月上中旬はタマネギの植え付け時期です。園芸店などから苗を購入し、植え付けます。価格は1本10円程度です。

タマネギには、早生・中生・中晩生品種があります。ここでは、タマネギ栽培における植え付けのポイントを紹介し、翌春に見事なタマネギが収穫できるよう解説します(第3図)。

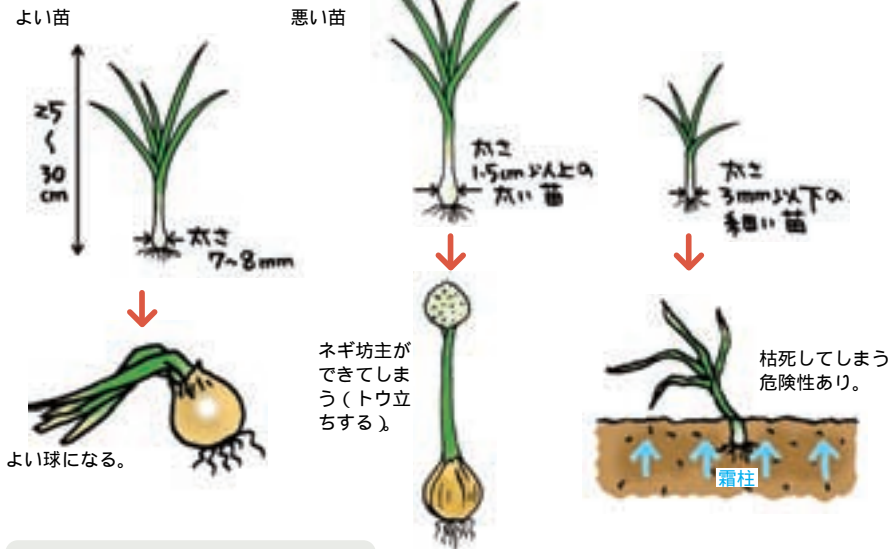
3 植え付け

早生品種は11月上中旬、中生・中晩生品種では11月下旬〜12月上旬が適期です。

マルチ栽培

畝幅は120cmとします。植え付け2週間前に、苦土石灰1㎡当たり150gを畑全面に散布し、よく耕します。1週間前に、1㎡当たり化成肥料100g、熔成リン肥50g、堆肥2kgを散布してよく耕した後、高さ10cm程度の平畝を作り、マルチをします。使用する

第3図 よい苗・悪い苗



理想的な苗

植え付け苗の大きさは大事で、草丈は25〜30cm程度がよいでしょう。ただし、問題になるのはこの時の苗の太さです。太さが7〜8mmであれば、順調に生育し結球しますが、太さが3mm以下の場合には凍害で枯死の危険性があり、逆に太さが1.5cm以上になると、低温に感応し、トウ立ちしてネギ坊主ができてしまいます。



タマネギ栽培に用いるのは、黒マルチがよい。

第4図 苗の植え付け

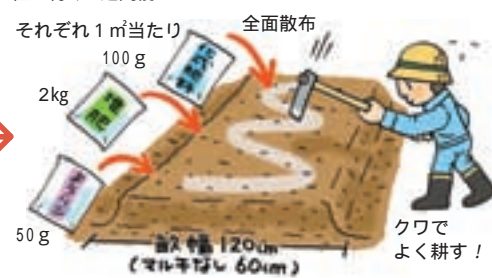
るのは、幅135cm、条間15x株間15cmの穴あき黒マルチです。苗は、深さ2cm程度に植え付けます(第4図A)。マルチなし栽培
畝幅は60cmとします。土づくりと施肥はマルチ栽培と同様に行い、高さ10cm程度の平畝を作ります。条間を20〜30cmとし、株間10〜12cm、1条ないし2条植えで苗を植え付けます(第4図B)。

土づくり

植え付け2週間前
苦土石灰を散布し、よく耕す。



施肥

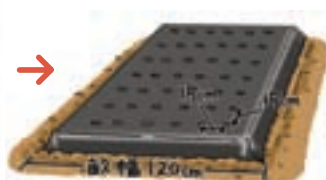


A マルチ栽培

畝作り・マルチング



マルチを張り、植え穴をあける。



植え付け

植え付け直後の苗は倒れぎみでも、活着するにしたがって起き上がってくる。

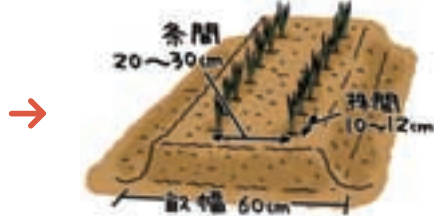


分けつ部を埋めない。

2cmくらい埋める。

B マルチなし栽培

畝作り・植え付け



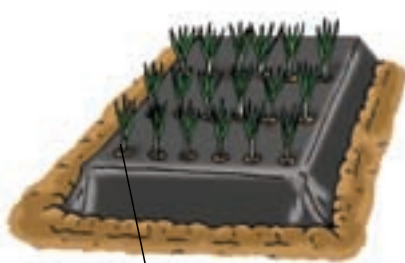
タマネギを切るとなぜ涙が出るの?

タマネギを包丁で切ると涙が出るのは、タマネギに含まれる硫化アリルが揮発し、目に刺激を与えるためです。この硫化アリルは目に刺激を与えるだけでなく、いろいろな有効作用を持っています。例えば、ビタミンB₁と一緒に摂取するとB₁の吸収を高め、利尿・発汗を促します。また、血液をサラサラにする効果は有名で、糖尿病、高血圧などの予防に有効だといわれています。ただ辛くて、涙が出るだけではないのです。

第5図 追肥

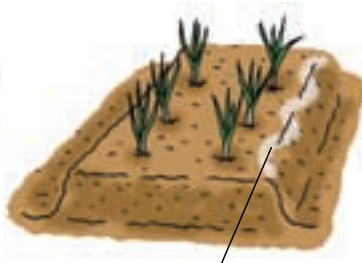
2月下旬、3月下旬に追肥する。

マルチ栽培



化成肥料を1㎡当たり30g施す。目安は、株元に1カ所1g程度。

マルチなし栽培



化成肥料1㎡当たり30g畝へ施す。

4 追肥

2月上旬と3月下旬にそれぞれ、化成肥料を1㎡当たり30g施します(第5図)。

第6図 収穫

早生種：5月上旬から
中生・中晩生種：5月中旬から

全体の7～8割の茎葉が倒れたら収穫できる。



全畑の7～8割が倒伏したら、収穫適期。

5 病害虫

タネバエの発生が多い畑では、ダイシストン粒剤を土壌混和してから苗を植え付けます。さび病にはジマンダイセン水和剤を散布します。

6 収穫

茎葉が7～8割倒伏し、なお緑色を残す時期に収穫します。収穫後は畑で風乾し、収納します(第6図)。

7 貯蔵

軒下など、風通しのよい日陰の場所でつり玉にします。家庭菜園では、10月上旬ごろまでとなります。また、冷蔵貯蔵をする場合は、0～2℃が目安です。



タマネギをつり玉にした様子。

オニオンセット栽培



夏に子球を植え付けると、年内に新タマネギが収穫できる「ホームたまねぎ」。

最近、8月末に小さな子球を植え付け、年内に収穫するオニオンセット栽培という方法が、家庭菜園でも行われるようになってきました。子球とは、3月にタネをまき、直径2cm程度の小さな球に肥大させたもので、これを8～10月に植え付けます。植え付けの時期が8月末までだと、年内に新タマネギが収穫できます。比較的簡単なので、ぜひお試しください。



藤田 智
(ふじた さとし)

秋田県生まれ。恵泉女学園大学園芸文化研究所准教授。専門は野菜園芸学、植物育種学、農業教育学。「NHK趣味の園芸」講師、雑誌「やさしい畑」連載などで野菜作りの魅力を伝える。著書に「別冊NHK趣味の園芸・わが家の片隅でおいしい野菜を作る」(NHK出版)など多数。

キホン野菜をおいしく食べよう タマネギの丸ごと煮

タマネギの甘みがぎゅっと詰まった冷やしてもおいしいスープ煮です。



材料(2人分)

タマネギ 小4個
干しエビ 大さじ2
ミニトマト 12個
サラダ油 大さじ1
コンソメの素 適量
塩 適量
こしょう 適量

つくり方

- 1 タマネギは皮をむき、底に1cmほど十字に切り込みを入れる。干しエビはもどして刻む。もどし汁は残しておく。
- 2 鍋にサラダ油を熱し、干しエビを炒め、もどし汁を加える。次にタマネギと、タマネギがかぶるくらいの水、コンソメの素を加えて強火にかけ、沸騰したら弱火にする。
- 3 ミニトマトを加え、キッチンペーパーの落とし布タをして30分ほど煮る。最後に塩、こしょうで味を調える。

料理監修：フードコーディネーター 西山朝子